

八代ゴルフ倶楽部  
スーパーグリーンフード(ペレット)散布レポート



2010年9月  
東京グリーン

## ■コース概要

○名称	八代ゴルフ倶楽部
○所在地	熊本県八代市二見本町2755番地
○面積	約940,500㎡(約28万坪)
○コース	18ホール(パー72 ベント1グリーン)
○オープン	1991年11月3日
○コース設計・施工	戸田建設株式会社/小松建設工業株式会社共同企業体
○ハウス設計	コウ設計事務所/本田建築デザイン事務所

## ■会社概要

○社名	八代グリーン開発株式会社
○本社	熊本県八代市二見本町2755番地
○代表取締役社長	古賀 大
○理事長	和久田 昭三
○キャプテン	金橋 清
○支配人	杉本 健治
○グリーンキーパー	藪 優秋

## ■コース特徴

熊本県の気候は地域間での差が激しいのが特徴だが、八代エリアは年間を通して温暖な気候。夏は涼しく、冬は暖かく、適量の降水量がある。シニアをターゲットにコース設計されたアップダウンの少ないフラットなコース。グリーンはベントのワングリーンでホール平均は572㎡と標準よりやや小さめ。フェアウェイはコウライ、ラフは野芝。フラットなコース特有の水はけの悪さが課題。



●八代GC コースレイアウト

## ■スーパーグリーンフード（ペレット）散布までの背景

2009年の秋頃、排水不良による水溜りからラージが発生。ラージの広がりが危惧されたが、様々な事情が重なり対処できなかった。秋から冬にかけてラージが進行し、特に悪い部分では裸地化状態になる。2010年に入り客足が徐々に遠のき、3月にその対処法として裸地化した部分を中心に真砂を250㎡散布するが、降雨などにより、砂は沈み、小石と土が浮上。プレーヤーのアイアンから火花がでて、クラブが傷むなどのクレームが発生し、3月は顧客が前年同期比で900人、4月は1800人と減少した。ラージパッチ、裸地改復の方法として、ティーグラウンド、フェアウェイ、グリーン周りにスーパーグリーンフード（ペレット）1000袋（20t）を散布する次第となる。



●2010年5月25日SGP1000袋納品

## ■2010年5月25日のホールの状態

1～18番まで全体的にティーグラウンド及び法面では擦り切れ及びそれにとまなう裸地化状態が目立った。フェアウェイ、ラフでも大小様々なラージパッチが見られ、特に排水口に向かう芝は裸地化が激しく、芝の張替え作業が施されたホールも多かった。



●1番ホールBTグラウンドの擦り切れ



●1番ホールBTグラウンド法面



●1番ホールFWのラージパッチ



●9番ホールFWの裸地化状態。白い砂は真砂。



●裸地では芝の張替えが実施。中央の青杭は修理地のサイン。芝の根が張るまで、白線内にボールが入った場合は、次のプレー(ショット)は白線外で行なわれる。



●排水口に向かう芝の張替え実施後

### ■散布の準備

トラクターがけん引するブロードキャスターにスーパーグリーンフード（ペレット）を入れる。開封後独特の匂いが鼻につくが、当日は風が強く、あまり気にならない程度。9袋（180k）でブロードキャスターが満杯になる。キャスター内の旋回部には針金を巻きつけてあり、これにより肥料がよく散布できるとのこと。通常の肥料散布では、特に湿度が高い場合には肥料がタンクの内側にへばりついたり、ブリッジを起こす場合があるとのこと。



●後部の白いタンクがブロードキャスター



●タンク内旋回部の針金



●SGPを投入する



●9袋(180K)で満杯に



●放線菌、細菌、糸状菌など微生物のかたまり



●タンク下部のレバーで肥料の散布量を調整する

### ■散布の実施

トラクターの座席後部にあるレバーを引くとブロードキャスターが始動し、タンク内で肥料を切りながら、回転円状に半径約3m肥料を飛ばしていく仕組み。今回は㎡あたり100gを散布。ティーグラウンド、フェアウェイ、グリーン周りの面積を正確に把握し、ムラがでないよう散布量を一定にする。2010年6月1日、No. 1ホール55袋(1100k)、No. 2ホール(RTから163ヤード、PAR3のショートホール)25袋、No. 3ホール(RTから530ヤード、PAR5のロングホール)70袋(1400k)最終組が1番をホールアウトした後、1番ホールから順々に散布し、3日間で900袋(18000k)散布した。芝の張替え部分には芝の活着を促進するためスーパーグリーンフード(ペレット)を㎡あたり100~200gほど手蒔き散布する。



●フェアウェイに散布中



●後部座席のレバーを引くとキャスターが始動する



●散布後のフェアウェイ。見えづらいが黒の粒子がSGP



●張替え部分にもSGPを散布

## ■散布後の経緯

2010年熊本県では6月、梅雨前線が活発化し、平年値と比べると県南部で2倍以上の降水量があり、日照時間は平年の半分以下の寡照となった。28日から30日は、県内全域で大雨となり、29日は八代で178.0mmと観測史上初の日降水量を記録。7月に入り長雨、寡照は続き、11日～15日は県内全域で大雨となった。期間の後半は、高気圧に覆われて一気に高温、多照となり、管理が難しい典型的な年となった。

元来水はけの悪いホールなので、ラージ菌の繁殖が懸念されたが、適正温度になっても、ラージに動きは見られず、徐々に回復へ向かう。散布後2ヶ月半には芝本来の色が出た、密度、弾力性に富むフェアウェイとなり、ラージも完全に回復した。

写真で見る散布前、散布後の経緯

八代ゴルフ倶楽部

22年6月1日

Before



Before



22年8月17日  
(2か月半後)

After



After



●1番ホールBTグラウンド法面

●1番ホールBTグラウンド

22年6月1日

Before



Before



22年6月23日  
(20日後)



22年8月17日  
(2か月半後)

After



After



●1番ホールBTグラウンド

●1番ホールラフのラージパッチ

Before



22年6月1日

Before



After



22年8月17日(2か月半後)

After



●1番ホールFW・ラフ

●1番ホールFW・ラフ

Before



22年6月1日

Before



After



22年8月17日(2か月半後)

After



●9番ホールラフ

●1番ホールFW芝張替え部分

## ■今後の展望

通常、春に発生したラージは、夏に回復するものも多いが、今年のような寡照、多雨、長雨時のラージ菌は繁殖する絶好の機会であり、逆に言えば気象条件を勘定に入れずにスーパーグリーンフードだけの効果を確認することができた。

これまでのラージ対策では農薬を使用しているゴルフ場が多いが、例えばフェアウェイ、ラフの広範囲に年2回の散布を実施するとなると、相当な経費になる。農薬は確実に、即効に病気を抑えることができるが、ラージ菌を全滅させることは不可能で、使用しなければまた発病する。

それに対し今回使用したスーパーグリーンフードは、ラージ菌の抑制に効果があると確認できた。またこの資材を使い続けることで、土壌中の菌体バランスを整え、地力をあげ、発病も予防できるのであれば確実に「減農薬」につながっていく。また肥料成分を補い、「減肥料」にもつながるなどメリットは多い。

それでも農薬や化成肥料を使い続けるのはなぜか。結論から言うとその“確実性”と“即効性”にあり、何かが起こった場合の“保険”なのではないか。もしそうであるならば、通常は有機肥料での管理を施し、“確実性”と“即効性”が必要な時にだけ農薬、化成肥料を使用してみてはどうだろうか。

ゴルフ場の「減農薬」、「減肥料」が話題に取り上げられて久しいが、より一層の環境に配慮した管理方法が求められている昨今、有機肥料をベースにした管理方法を本格的に導入する時期にきているのではなかろうか。

